

平成25年 7月10日

論文審査結果の要旨

専攻 入学年度	生物機能応用科学専攻 平成22年度(10月)入学	氏名	井上 尚典
論文題目	ブタ肝臓水解物の機能性に関する研究 (Studies on the Functionality of Porcine Liver Hydrolysate)		
審査委員 職名及び氏名	主査	教授	太田 一良
	副査	教授	芦澤 幸二
	副査	教授	林 幸男
	副査	教授	窄野 昌信
	副査	准教授	河原 聡
	副査	名誉教授	六車 三治男
審査結果の要旨(800字以内)			
<p>本研究は、2種類のブタ肝臓水解物(LH-IおよびLH-II)の成分分析を行い、<i>in vitro</i>での抗酸化作用およびアンギオテンシン変換酵素(ACE)阻害作用および高血圧自然発症ラット(SHRラット)を用いたLH-IおよびLH-IIの血圧に及ぼす影響について追究したものである。LH-IおよびLH-IIは、抗酸化活性およびACE阻害活性を有し、SHRラットにおいてLH-IおよびLH-IIは血圧低下作用を示した。次にメタボリックシンドロームモデルラット(SHR/NDmcr-cpラット)を用いて、肝臓水解物投与の血糖に及ぼす影響について検討した。SHR/NDmcr-cpラットに肝臓水解物5%混餌飼料を12週間与え、空腹時血糖およびHbA1cを3週間毎に測定した。また、12週間の肝臓水解物給餌後、経口糖負荷試験を行い、血漿中アンギオテンシンII(AngII)濃度を測定した。その結果、経口糖負荷試験において、肝臓水解物投与はD-グルコース投与による血糖上昇を有意に抑制した。肝臓水解物は空腹時血糖値に対してはほとんど影響を及ぼさなかったが、HbA1c値の上昇を抑制させる傾向が認められた。血漿中AngII濃度はコントロール群に比べ有意に低値を示した。</p> <p>本研究で明らかにされたブタ肝臓水解物の機能性は、生活習慣病の予防、改善に寄与するものと考えられる。</p> <p>以上の論文内容について平成25年7月10日午後3時00分から宮崎大学農学部フロンティア科学実験総合センター(遺伝資源分野)セミナー室で、上記6名の審査委員の出席のもと、博士学位論文公聴会と最終試験を行った。その結果、論文も適正に記述され、内容も新規性・独創性も高いことから、博士論文として相応しいと認められた。最終試験では、研究内容およびこれに関連する事項について諮問を行った。その結果、審査委員は全員一致で博士(農学)の学位を与えるに足る資格をもつものと判定した。</p>			

(注) 論文題目が外国語の場合は日本語を併記すること。